

令和4年度教育事業

「ボランティア養成セミナー（実技編）」【R4.6.25（土）～26（日）】

◆目的

- ・青少年教育施設ボランティアに求められる知識、技能を習得し、教育事業や研修支援等の運営協力、指導補助などを担う人材を育成する。また、ボランティア活動の推進及び充実を図る。

◆目標

- ・青少年野外教育施設等でのボランティア活動の役割について理解を深める。
- ・今年度の教育事業の特性に応じた体験活動についての知識や技能を習得する。

◆参加実績（募集20名）

参加12名（男性5名 女性7名）
 年齢 10代：5名 20代：6名
 30代：1名

	男性	女性	計
高校生	0	1	1
大学生	4	5	9
社会人	1	1	2
計	5	7	12

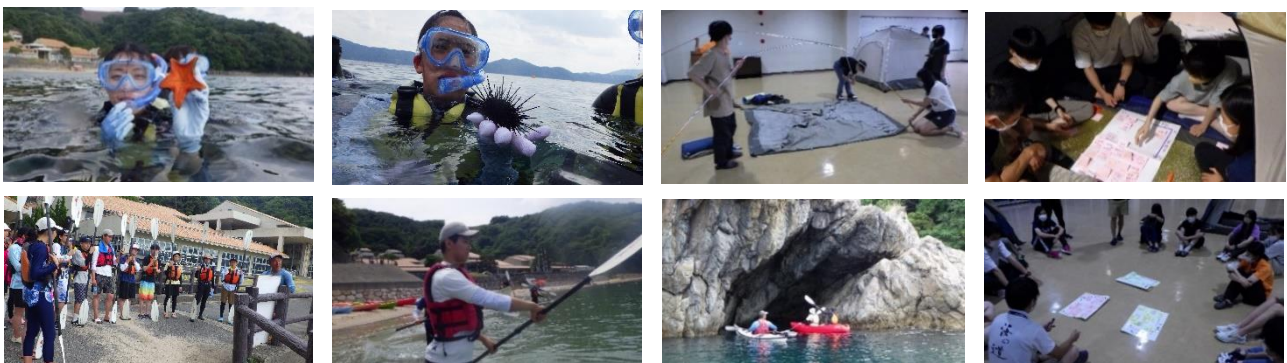
こんなことも予定しています
ボランティア養成セミナー（実技編）
開催日：令和4年6月25日（土）～6月26日（日）
 会場：国立若狭湾青少年自然の家
 参加費：2,000円程度予定（食事代等）
 対象者：20名程
 （※応募者多数となった場合には、法人ボランティア登録者で若狭湾でのボランティア活動をされる方を優先に抽選します。）
内容：若狭湾で行われる活動の「カヤック」「スノーケル」「テント泊」等の自然体験技術の習得及び活動における安全管理について理解する。
【ボランティア養成セミナー（実技編）申込QRコード】
 参加希望の方は、こちらのQRコードを読み込み、WEBからお申込みください。
申込締切：6月6日（月）

ご記入いただいた個人情報は、「独立行政法人国立青少年教育振興機構」が保有する個人情報の適切な管理に関する規程に基づき適切に管理し、この事業に関する事務目的に限り、其中等に宛たる場合を除いて第三者に提供することはありません。本事業で職員等が撮影した写真や映像、制作物、感想文等の著作物、撮影物の複製に同意する旨を、申込書お申し込み、イベント参加申込フォームの「プライバシーポリシー」欄に同意する旨が記載されています。また、複製、撮影等が行われる制作物に署名・写真掲載することもあります。なお、掲載権がインターネット上に公開した画像及び著作物について、本人（又は保護者）から削除依頼を受けた場合は速やかに削除します。ただし、印刷物等については対応できませんのでご了承ください。

お問い合わせ先：
 国立若狭湾青少年自然の家 〒917-0198 福井県小浜市田高区大浜
 電話：0770-54-3100 FAX：0770-54-3023
 Eメール：wakasayan@nkyo.go.jp 本事業担当：岡田、井石、和泉

◆プログラム

	6月25日（土）		6月26日（日）
午前中	○ボランティアスタッフとの事業予定・参加者情報の共有及び事業の目的・参加者への関わり方の打合せ	9：00 ～ 12：00	シーカヤック講習 外部指導者：大瀬 志朗 ○道具説明 ○操船方法、危険行為、海上、風、危険エリアの見分け方等説明 ○操船練習
14：00 ～ 17：00	スノーケリング講習 ○道具の使用方法、危険行為の説明 ○スノーケリング実習 ○振り返り ○指導時の注意、配慮事項の共有	13：00 ～ 15：00	シーカヤック講習 外部指導者：大瀬 志朗 ○カヤック実習、海上移動 ○磯場での危険生物、活動説明 ○磯場での生き物観察、水辺実習 ○振り返り ○指導時の注意、配慮事項の共有
18：00 ～ 21：00	テント設営講習 ○道具、テント設営・撤去方法説明 ○テント設営 ○振り返り ○指導時の注意、配慮事項の共有		



◆参加者の声

- ・子どもに指導するにあたって、どのように行くと子ども達に分かり易く伝わるかなどについて学べた。
- ・テント設営など実際に組み立て、その後もたくさんの人の意見が聞けてよかった。
- ・実際に1日海の活動を行っただけなのに、すごく疲れたので、子ども達の2日目の安全性の確保などすごく大切になってくると感じました。
- ・子ども達のサポート、安全管理を同時に行うという事は、簡単に聞こえてとても難しいことなんだという事を今回の活動を通じて感じました。
- ・海が苦手だったけれど、スノーケルの活動で克服することができた。
- ・今後の若狭湾での活動は、児童に直接携わっていくものだと思うので、学んだことをしっかりと活かせるように復習等をしていきたい。
- ・活動に必要なものや、注意した方がよいことを学べた。
- ・まだまだ気づけない点が多かったなので、活動をする中で学んでいけたらと思う。

◆成果

- ・アンケート結果は、8割以上の参加者が事業に対して満足と回答し、アンケート内容からは「普段できない体験や、大切なポイントをしっかり分かり易く楽しませながら教えてくれた」「活動は楽しいけれど、色々なところに危険があると感じた」「子ども達が安全に楽しめるのかを考えなければいけないと感じた」等のコメントがあり、実際にボランティアとして参加した際の役割について理解を深めた事が伺えた。また、「スノーケルやカヤックの基礎的な技術を学ぶことができた」「子どもと一緒にになると危険な点も多いので、事前に予想を立てて慎重に行わなければならないと思った」等、自然体験への知識や技術等を学ぶことができたと同時に、当施設でのボランティア活動への理解が深まり、活動の知識・技能を習得できたことが伺えた。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- 参加者が実際に体験した後に、ボランティアとして活動する場合や配慮すべき安全面への問いかけを行うことで、イメージや個々の意見が出やすい。その際考えをまとめる時間を大事にする必要がある。
- 外部講師を招き、豊富な経験から得られた危機管理能力や指導方法を学べるよう計画したことで、ボランティア自身が参加者との活動時に必要な事や安全面等多方面から学び、感じられるようにした。
- 参加者の過去の参加履歴や、登録の有無、会ったことがあるかどうか、顔と名前を一致させるなど、状況把握を行う事で、「覚えてくれているんですか!」と好評で参加者との距離は縮まった。
- 安全管理の学びは講義形式にすると参加者が退屈になりやすい部分でもあるので、参加者同士がコミュニケーションを取れる形で進められるように、どんな手法が適切か検討し進める必要がある。
- スタッフに先輩ボランティアを加え、食事や宿泊場所・使用方法やボランティア活動時の注意点といった、参加者に近い立場からの声が伝わるよう計画した。
- 広報した大学から「事業名が【ボランティア養成セミナー（実技編）】だと学校・学生達に説明し難い」「ボランティアってどんなボランティア」等の問合せがあり、法人ボランティアの内容もチラシに記載する。
- 【ボランティア養成セミナー】と同じチラシに記載していた為「両方受講しないといけないのか」等の混乱を招いた。次年度から実技編に関しては、チラシへ記載しないようにし、登録ボランティアにのみメールで本事業の広報を行う。
- 【実技編】をボランティア活動に関心が高いうちに経験できるよう「ボランティア養成セミナー」と同月に計画したが、「同月に2回は予定を組むのが難しい」と参加者からの意見もあり、例年のボランティア参加状況・学生生活等を考慮し次年度は5月に「ボランティア養成セミナー」6月に「実技研修」と分けて開催する。